

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300446		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ハーモニー湖南		
所在地	福島県郡山市湖南町三代字寺ノ前290		
自己評価作成日	平成26年3月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	平成26年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧三代小学校を改築した施設であるため、地域の方もなじみがある。元が小学校であるためにスペースも広く行事やイベントなど人が集まりやすい。湖南町のお客様や職員が多いため顔なじみの関係がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行事やボランティアの方を通して、事業所を知っていただけるよう、積極的に働きかけ、開かれた事業所作りをして地域に貢献できるようにしている。
管理者は職員とコミュニケーションがよくとられ、緊急時などでも適切な判断と指示や連携がとれ、利用者の安心・安全につながっている。
災害時には地域の避難場所や防災拠点として、利用していただけるよう、いつでも受け入れる体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所内に掲示し、毎日の朝礼時に全員で唱和する機会を持ち、理念の共有をしている。又、それに基づいた行動基準も唱和し、一日の目標を掲げ取り組んでいる。	法人理念を基本にして、一人ひとりの利用者にあったケアに取り組んでいる。理念を申し送り時に唱和し、その日の目標を話し合い、利用者本位のケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、敬老会や盆踊りなど地域の行事にも参加している。また、地域の文化祭にも作品を出展したり、見学に行ったりしている。	元小学校を改築した事業所であるため、地域の方のなじみの場所になっている。小学生が見学に来たり、ボランティアの方が訪問してくれている。廃品回収に参加したり、猪苗代湖の草刈や清掃活動に参加を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議を活用し家族や地域の関係者への支援について報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長会長、区長、地域包括支援センターの職員と事業所での問題点等に関して解決に向けてのアドバイスをいただいたり、広報を通して施設の活動を報告し、会議メンバーからの助言をいただいている。又、ご利用者様の利用状況や行事予定なども報告している。	事業所をもっと知っていただけるよう、地域の方に説明してはどうかとの提案をいただいている。事業所の夏祭りのときに一緒に地域の盆踊りを行い、喜ばれてこれからも継続しておこなってほしいと要望され、実行できるよう計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政センター、介護保険課、長寿福祉課の担当者へ随時困りごとや相談にのって頂き、連携を図っている。	開設準備時から市と連携をとり、相談をしたりアドバイス等をいただいている。行政の方が見学に来たり、日常的に事業所の状況を報告したり、利用者の紹介を受けるなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及びすべての職員が身体拘束の勉強会を実施し知識を得ている。身体拘束廃止委員会を設置し、日々の業務の中でも身体拘束がおこなわれていないかを委員会を中心に検討している。	身体拘束のリスクを理解し、拘束しないことを基本にしている。言葉の拘束についても、使わないほうがいい言葉の事例を掲示し、理解してもらえよう話し合いをし、意識してケアに取り組めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に積極的に参加し、職員会議や施設内研修などで教育システムを活用しながら職員の指導に努めている。高齢者虐待防止の取り組みについての委員会を構成し、月に1度ミーティングを開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修、外部研修で大まかな流れを把握しているが実際活用に至ったケースはまだない。今後も勉強会などの企画をおこないながら的確な制度活用できるように努めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にパンフレット、重要事項説明をおこない疑問点など納得されたからの契約を実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成担当者を中心に、送迎時、行事の際や家族会などを通して家族の意見、要望をできる限り対応している	本人・家族が気兼ねなく意見や要望を伝えることができるよう、意見箱の設置場所を工夫している。利用者の担当職員が家族と話し合い、情報を他の職員と共有し、意見や要望を運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の声に耳を傾け、できる限り職員の気づきや意見をサービス改善にいかすことができるように努めている。年に数回本部役員との面談をおこない職員が直接意見交換ができるように努めている。職員会議においても職員の意見や提案を聞き、内容により本部へ提言している。	管理者は自ら計画し、みんなの広場の囲炉裏を囲んで、いろいろな話をするなど話しやすい環境づくりをしている。レクリエーションなどは職員の意見・提案を取り入れ、計画・実行してもらい達成感をもって貰えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援をおこない、日々の業務について評価をおこない昇給などにつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育部門があり、法人内研修などで能力向上を促した学習指導がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員の積極的な研修参加を支援している。研修等を通して交流をおこなうことで事業所のサービスの質の向上にいかすことができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの中でご本人にとっての必要なサービスや要望の聞き取りを実施しケアプランにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望の聞き取りを親身になって実施し柔軟性のある対応ができるよう検討している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族に聞き取りを行い、その時点で最も必要をしている支援を見極め、柔軟性のある対応ができるように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、カーテン開けなどご本人ができることはできる範囲でしていただき一人一人が役割を持って生活できるような関係を築けるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との相談、連絡などを積極的におこない、行事などにも参加し本人の支援に関しての情報の共有を図るようにしている。面会時にも施設での本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族ができるだけ来ていただきやすい環境を提供し本人の関係を維持できるように支援している	馴染みの美容室に行ったり、近くの菓子店に行くなど馴染みの関係や生活習慣が、継続できるように支援している。小規模多機能事業所と併設されているので、利用者同士が行き来し、馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人や家族からお話を伺い馴染みの場所(床屋、病院など)への外出を家族の協力をいただいたり、外出レクなどを通してつながりを続けられるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、グループホームでのサービス終了者は居ないが、今後対象者が現れた場合、ご本人やご家族との関係性を大切にしながら経過をフォローし、相談や支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画担当者と担当職員を中心に日頃の様子から本人の思いや意向を聞き取りできるようにしている	一人ひとりに合ったやさしい方言を使った声かけをし、思いの意向をくみ取るようにしている。意思疎通が困難な方には、しぐさや表情・家族の方から情報を得るなど、思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前に本人、家族、他機関から情報を収集し生活歴や趣味、生活パターンなど今までの生活が継続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活が現在の生活と同じような流れになるように利用時に情報を確認し対応している。また、モニタリング時などに家での様子や施設での様子を話し情報を共有するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング後、状態の変化にともなう新たな課題の発生時には家族、担当者で話し合い計画の検討をしている	本人・家族・職員が話し合い、その人にあった個別の介護計画を作成している。本人・家族の状況の変化に応じて、話し合いを行い柔軟な見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日常生活記録の見直しをおこない個々の情報を共有しやすいものになっている。ミーティング、会議での情報交換をもとに介護計画の見直しをおこなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様のニーズに沿って柔軟な支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し町内行事への参加をし本人の楽しみのある生活を維持できるように支援している。運営推進会議においても参加者から情報を収集している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿った医師となっている。通院時は事前に家族に生活状況をお話したり、書面を使用しながら主治医との連携を図っている。	受診は家族の同行を基本にしている。家族の要望があれば、本人の健康記録を持参し職員が代行し、利用者・家族が安心できるよう受診支援している。必要に応じて、協力医療機関からの往診を受けることができる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内での状態の変化を看護師が把握し、医療機関に相談、家族への報告など迅速に適切な医療がうけられる体制をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを施設で作成し医療機関にもちより、また退院時は計画作成担当者、看護師がカンファレンスに出席し本人の情報共有や相談をおこなっている	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの際に急変時の対応などをご家族に確認するようにしている。また、対応できないことをその都度説明し、ご家族にご理解をいただき重度化をむかえた場合の相談支援をおこなっている	重度化や終末期について、同意書をもとに説明をし、理解をしていただいている。状態変化に応じて繰り返し話し合い、思いに添える様取り組もうとしている。職員は、同一法人の他の事業所の事例を参考に、勉強会を開き、理解を深め対応できるようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や外部研修を通して緊急時対応を訓練している	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の避難訓練を実施し利用者が避難できる方法を出勤時スタッフが身につけることができた	消防署の協力を経て、消火訓練や避難訓練を行っている。訓練後、車椅子の方の避難の仕方や安全に短時間で避難できる方法のアドバイスをいただいている。消防署分署の防火講習会に参加している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修でマナー研修をおこない言葉かけや対応について学習している	一人ひとりの生活習慣や考え方を理解し、家族の意向を受け入れ、プライバシーを損ねないその人らしい生活ができるようにしている。利用者同士の自己主張が、エスカレートしそうなときは、職員が間に入り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中からお本人の希望や思いを把握するように努めている。できるだけ自分で決定できるように時間の過ごし方、衣服の選択、おしゃれ、嗜好、外出レクなど対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるかぎり本人のペースですごしていただけるようにお部屋にテレビを置いてもらったり、本人の選択の幅を広げた生活ができるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し定期的にかットや整髪ができる機会をもうけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメント時に本人の好きな物や嫌いなものを聞き対応している。テーブル拭きや下膳などできることはしていただいている	利用者の希望をメニューに取り入れている。家族や地域の方からいただいた野菜などを一緒に調理し、季節を感じてもらえるようにしている。利用者と職員が食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントや医療機関との連携を実施し本人に合わせた食事形態の把握、摂取量の把握をおこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをご本人の能力をみながら声掛け、介助をおこない、口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし本人の状態に合わせ、排泄委員会が中心になって一人一人の排泄パターンや支援方法を検討し、快適な生活の支援に努めている。夜間リハビリパンツを使用しているお客様にも日中は布パンツを使用している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、耳元でさりげなく声かけ誘導し、自立に向けた支援をしている。タイミングが合わず失敗したときは、何気なく誘導し、対応するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をおこない医療機関の指示のもと下剤でのコントロールをおこなっている。水分量を増やすために、個人の好みにあった水分の提供、起床時の一杯の水の提供を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴の仕方を尊重し、本人の楽しみのある場になるように提供している。季節により菖蒲湯、ゆず湯などを使用しより気持ち良い入浴をしていただく工夫をしている。(入浴剤も使用している)	一人ひとりのペースや気分に合わせて、入浴できるよう支援している。嫌がる人には、成功例を職員同士が話し合い共有し、気持ちよく楽しく入浴していただけるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて横になって休んでいただいたり休息の時間をつくっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設看護師が薬の管理を実施している。薬の名前や効果については個人の処方箋でいつでも確認ができるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできる力を生活の中より把握し役割を持って生活ができるようにしている。気分転換については外出レク、行事などをおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	日常で買い物、散歩など体調に合わせて支援をおこなっている。年間行事計画をもとにお花見や季節の花を見にでかけたり紅葉狩りなどその方に合わせて楽しみをもった生活を支援している	地域の文化祭に出品した作品を見に出かけたり、近くのケアハウスのクリスマス会に参加するなど、外出支援をしている。利用者の希望で、近くのお店やラーメン屋さんに行くなど、出かける機会を多く設けるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族、施設の判断もあり、金銭を自分で管理している方は少ない。急に必要なものが出た場合は施設で立替えて購入して買い物の支援をおこなっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が自宅や親戚、友人への連絡をとりたいと希望される場合は事務所の電話を利用し自由に連絡を取ることができるようにサポートしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様の作品や写真などを飾ったりして馴染みやすい環境づくりを心掛けている。季節感が感じられる花を生けるようにしている	小学生が見学に来たときの感想文や、昔のポスターや写真が飾られている。みんなの広場には、訪問した人が楽しんでいただけるよう、絵本や雑誌が置かれ、居心地のよい空間作りをしている。感染症予防に、温度や湿度の管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではテーブルの配置を工夫し多人数で賑やかに過ごせる場所や少人数で市うかにくつろげる場所づくりをおこないお客様の居心地に合わせた使い分けをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	自宅での生活状況を基本に洋室、和室、ベッド、布団などご本人に確認してご利用いただいている	たんすや馴染みのものを持ち込んでもらい、その人らしく暮らせるようにしている。衣替えなどは、家族の方や職員と一緒にいき、整理整頓し清潔な居室作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるようにトイレの目印を作ったりできるだけ主体的に動くことができるような環境づくりをこころがけている		